

グラフで見る関西経済(2022年1月)

2022年1月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~持ち直しが一服

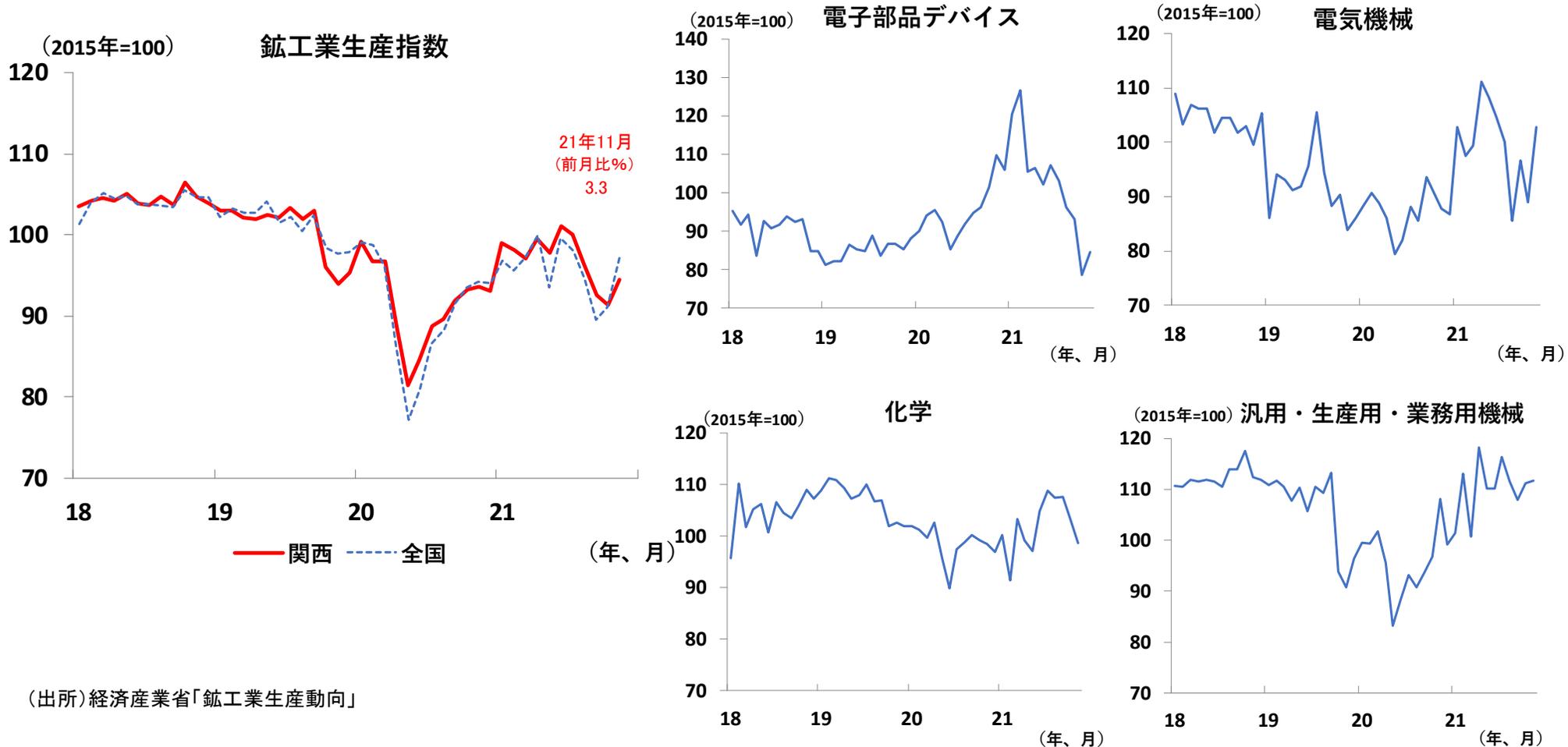
【今月のポイント】

- 生産(11月)は5ヵ月ぶりに増加となった。電子部品デバイス、電気機械などが増加したが、全体としては弱含み基調が続いている。先行きについては、半導体不足などの影響で足踏みとなるリスクもあるが、持ち直しが見込まれる。
- 実質輸出(12月)は2ヵ月連続で前月比で減少し、足踏み状態となっている。
- 個人消費は、10月の緊急事態宣言の解除以降、小売販売が2ヵ月連続で増加となるなど持ち直しの動きがみられる。

項目	現状
景気全般	持ち直しが一服
生産	弱含んでいる
輸出	足踏み状態
設備投資	持ち直しの動きがみられる
雇用	弱い動きがみられる
賃金	弱い動きがみられる
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい
公共投資	弱い動きがみられる

生産

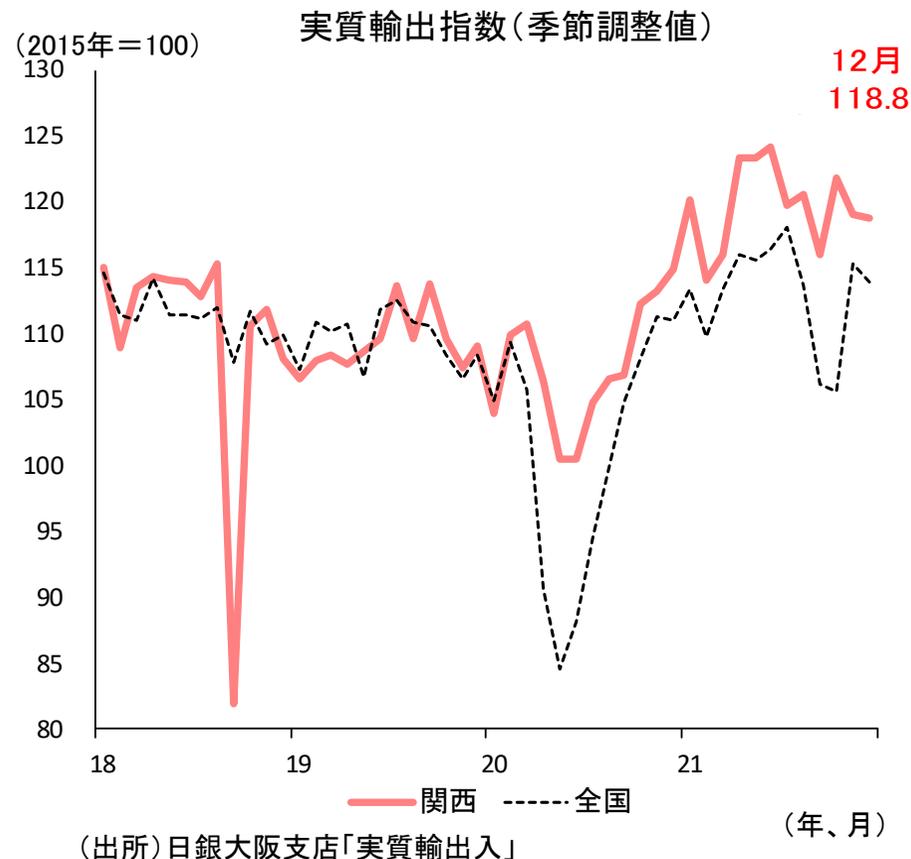
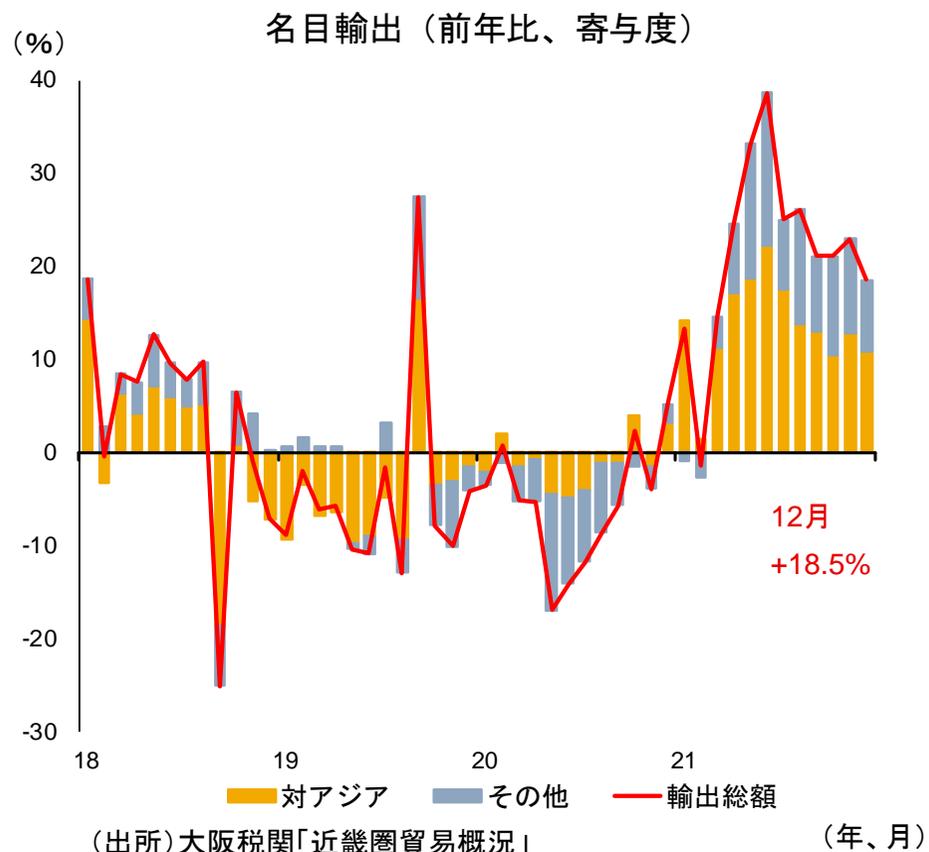
11月の鉱工業生産(関西)は前月比+3.3%と5カ月ぶりに増加。電子部品デバイス、電気機械などが増加した。先行きについては、半導体不足などの影響で加工・組立業種などで足踏みとなるリスクがあるが、供給面での制約を克服しつつ持ち直し基調での推移が期待される。



(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

輸出

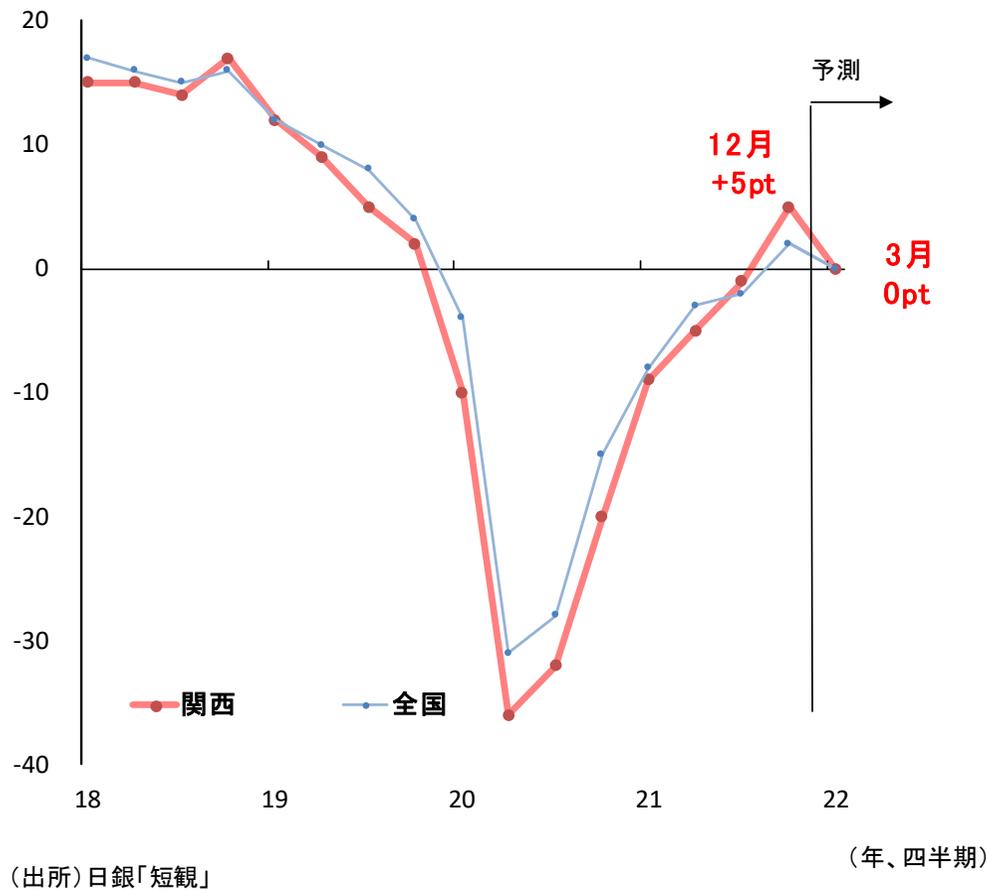
12月の名目輸出額は、前年比+18.5%と10カ月連続で増加。地域別では、アジア、米国、EU、その他のいずれも増加した。品目別では、半導体等電子部品、鉄鋼が大幅に増加した。
一方、12月の実質輸出(季節調整値)は前月比-0.2%と2カ月連続で減少した。



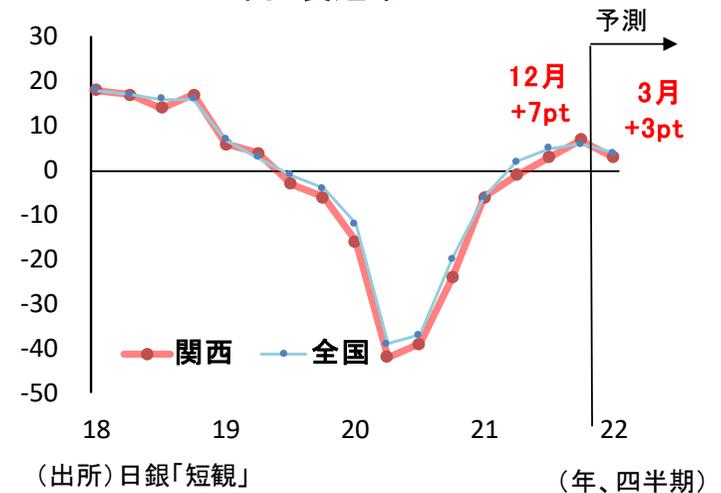
企業景況感(日銀短観) ※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査の業況判断DIは、全産業で+5ptと9月調査から改善。製造業は+7pt、非製造業は+4ptといずれも改善した。先行き(3月)については、コロナ感染再拡大や部品不足等の懸念から、全産業、製造業、非製造業いずれも悪化が見込まれている。

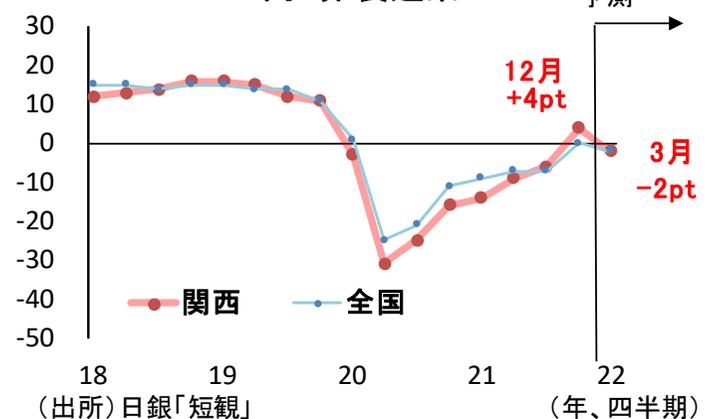
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業



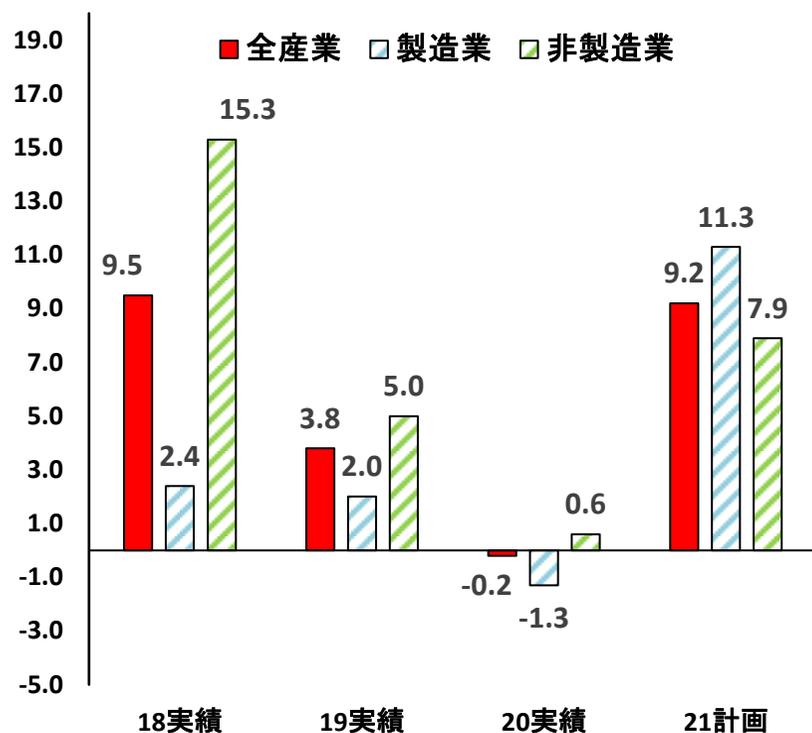
同 非製造業



設備投資※以下は12/13公表の12月調査。3月調査は4/1公表予定

日銀短観12月調査によると、21年度の設備投資(計画)は前年比+9.2%と増加が見込まれている。9月調査時と比べて、製造業は下方修正、非製造業、全産業は上方修正となった。化学、はん用・生産用・業務用機械、不動産などで大幅増の計画となっている。

(前年比、%) 設備投資 実績・計画



(出所)日銀大阪支店「短観」

(注)設備投資は、含む土地投資額

(年度)

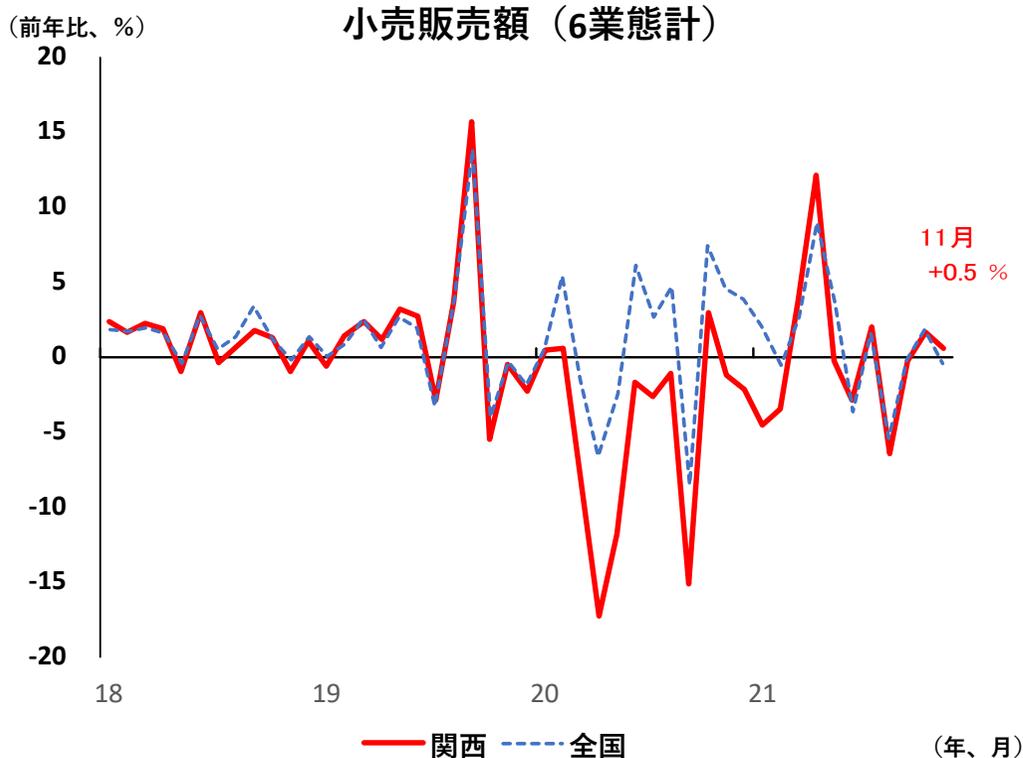
設備投資額(前年比%)

	20年度実績	21年度計画	
		今回調査 (前回調査との差異)	前回調査
全産業	-0.2	9.2 (1.6)	7.6
製造業	-1.3	11.3 (-2.8)	14.1
非製造業	0.6	7.9 (4.5)	3.4

個人消費(小売売上、自動車販売)

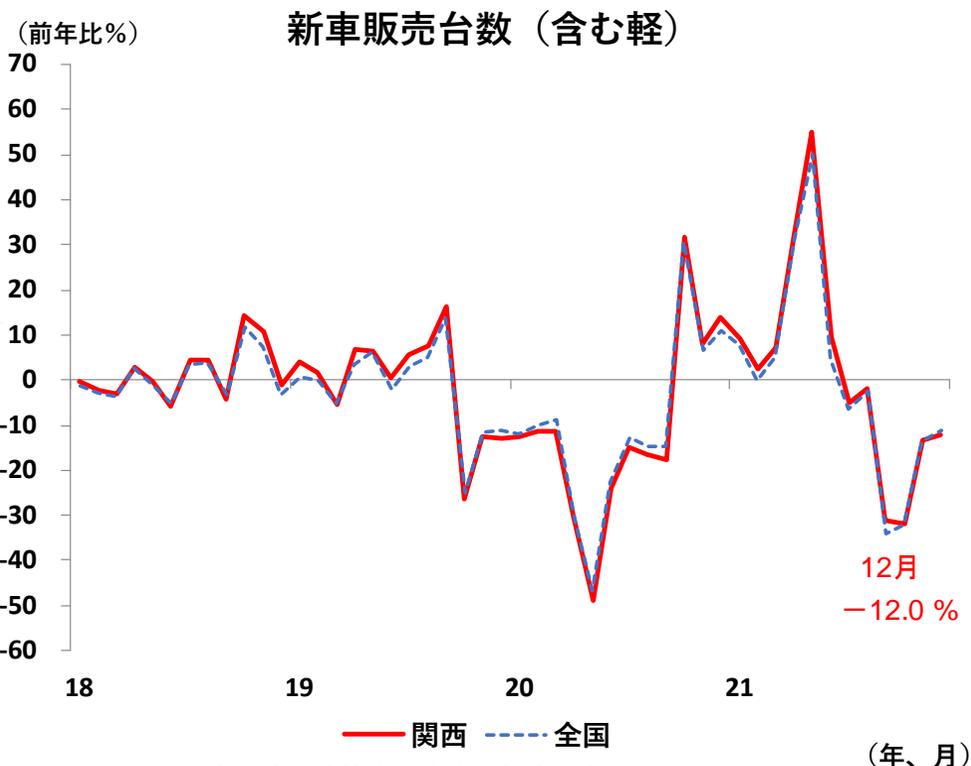
11月の小売販売額は、緊急事態宣言解除後の人流の戻りもあって前年比+0.5%と2カ月連続で増加した(一昨年比では-0.7%と2カ月ぶりに減少)。

12月の新車販売は、部品供給不足による生産調整の影響により前年比-12.0%と6カ月連続で減少した。減少幅は縮小したが2桁マイナスの大幅減が続いている。



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

(注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

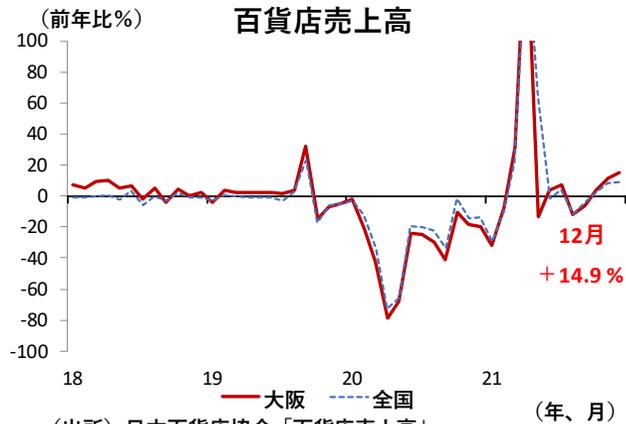


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

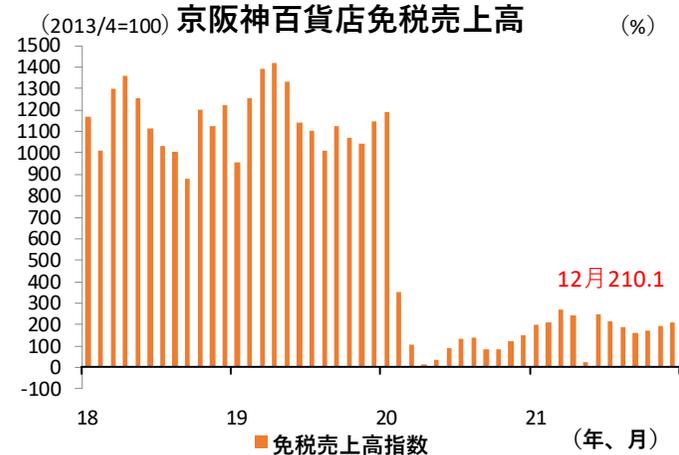
全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

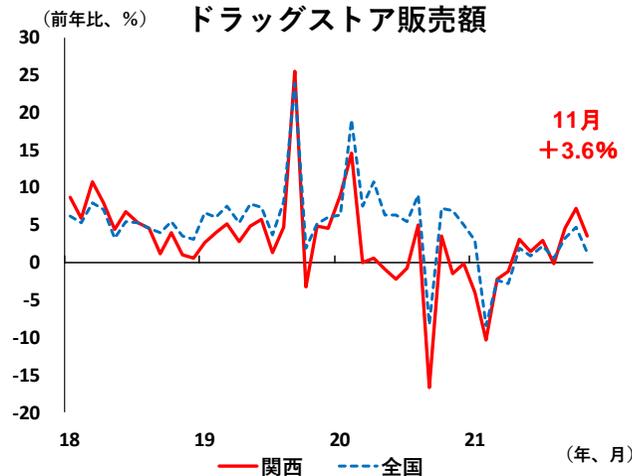
12月の百貨店売上(大阪)は、新型コロナ感染者数の減少傾向が続いたことによる人流の増加もあって、前年比+14.9%と3カ月連続で増加したが、一昨年比では-7.7%と減少が続いている。京阪神免税売上は、一部の例外を除いて訪日外客の出国制限が続く中、低水準で推移している。



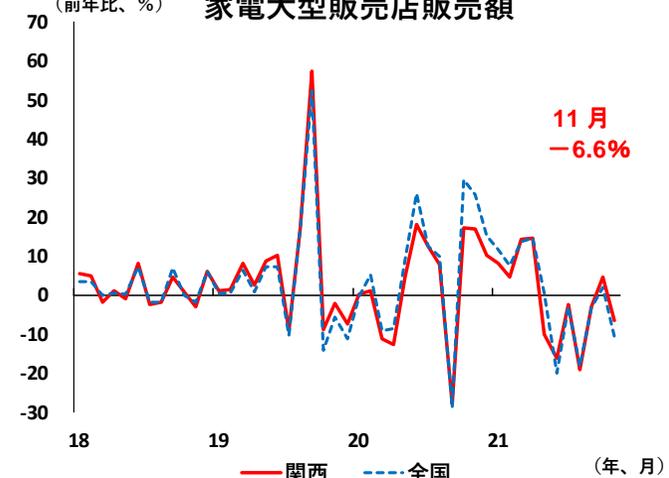
(出所) 日本百貨店協会「百貨店売上高」
(注) 店舗調整後前年比



(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西)」
(前年比、%)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」



(出所) 経済産業省「商業動態統計」

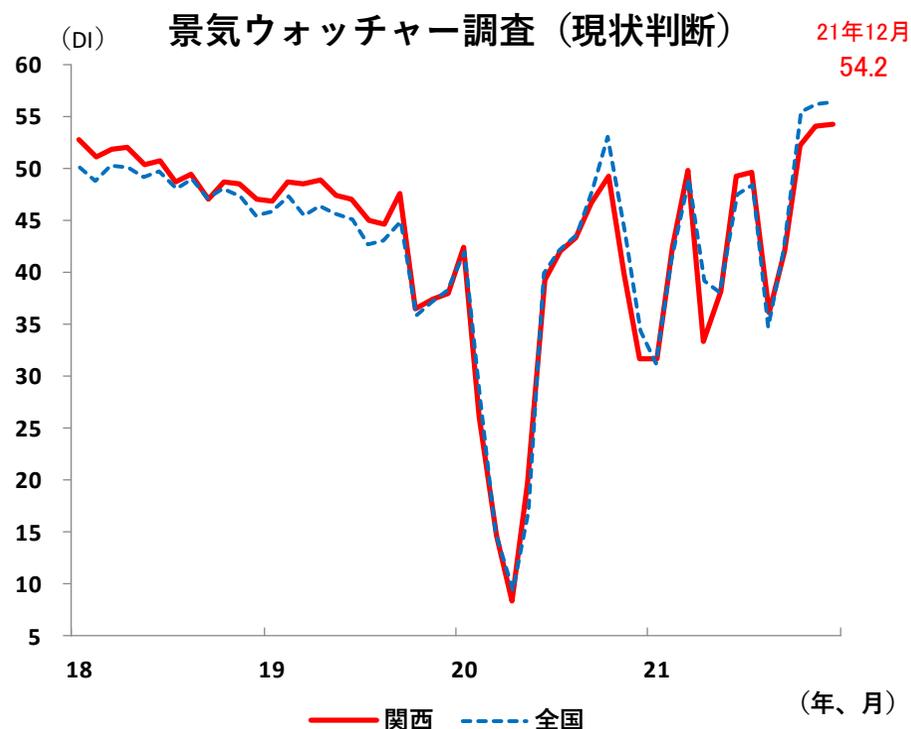
マインド・景況感

12月の消費者態度指数(季節調整値)は36.7と5カ月ぶりに上昇した。

12月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI)は、前月差+0.1ポイントの54.2と小幅ながら4カ月連続で上昇した。12月中は感染状況が落ち着いていたため、景況感の改善が続いた。先行きについては、感染拡大が懸念されている。



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

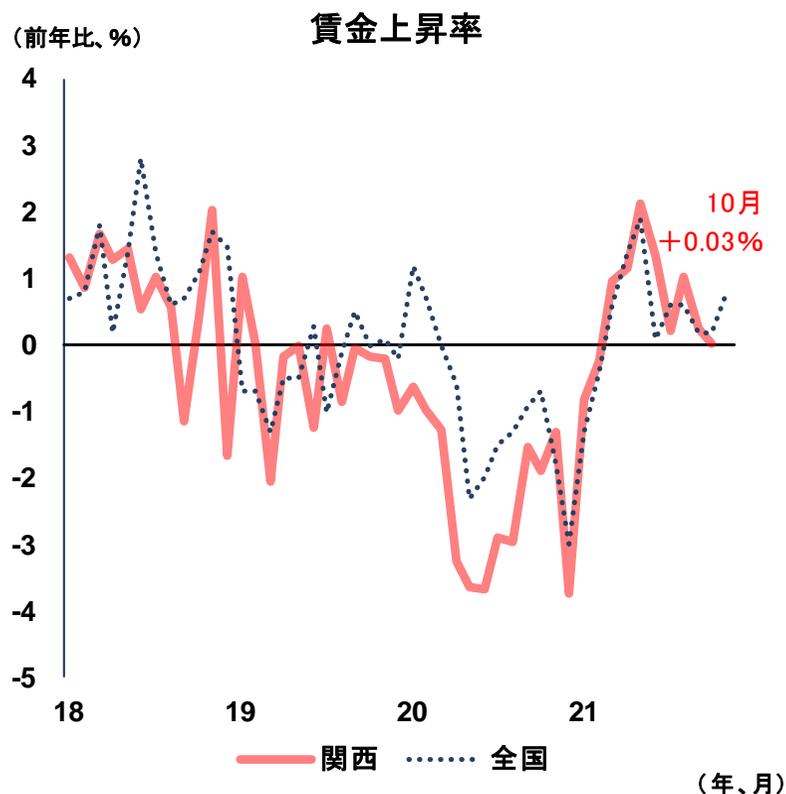


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

賃金・雇用

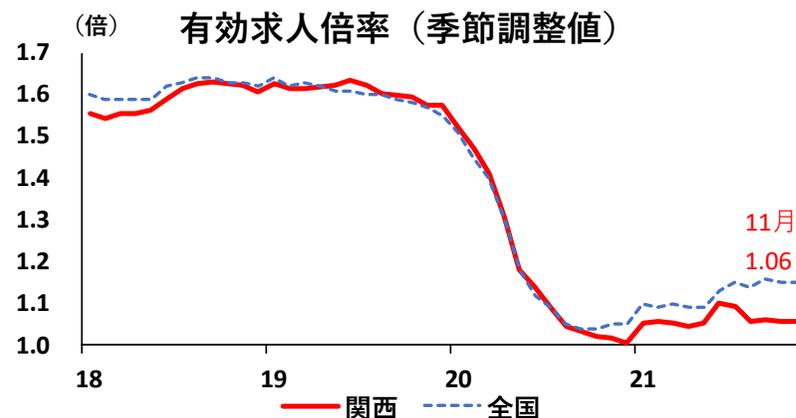
10月の名目賃金指数は、前年比+0.03%と小幅ながら8カ月連続で増加したが、一昨年比では-1.8%と減少している。

11月の有効求人倍率は1.06倍と前月から横ばい。全国に比べ求職者数増加の度合いが高く、求人倍率は低めで推移している。21年7-9月期の失業率は3.0%と前期から低下したが、就業者数は減少した。

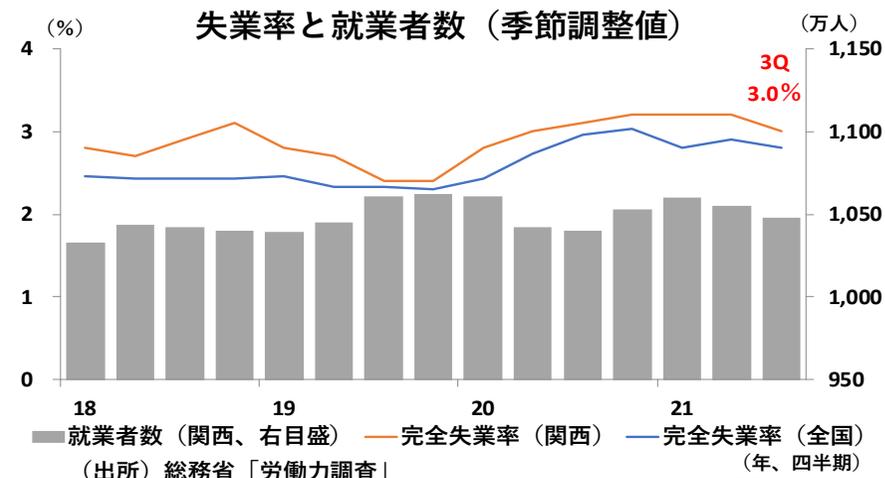


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算

(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」

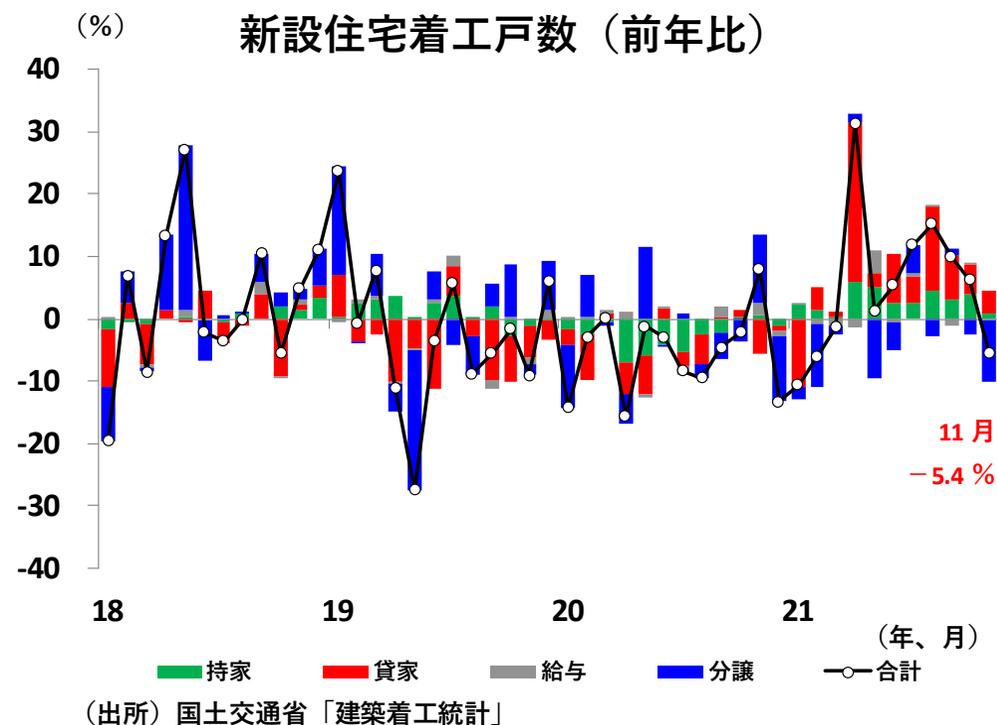
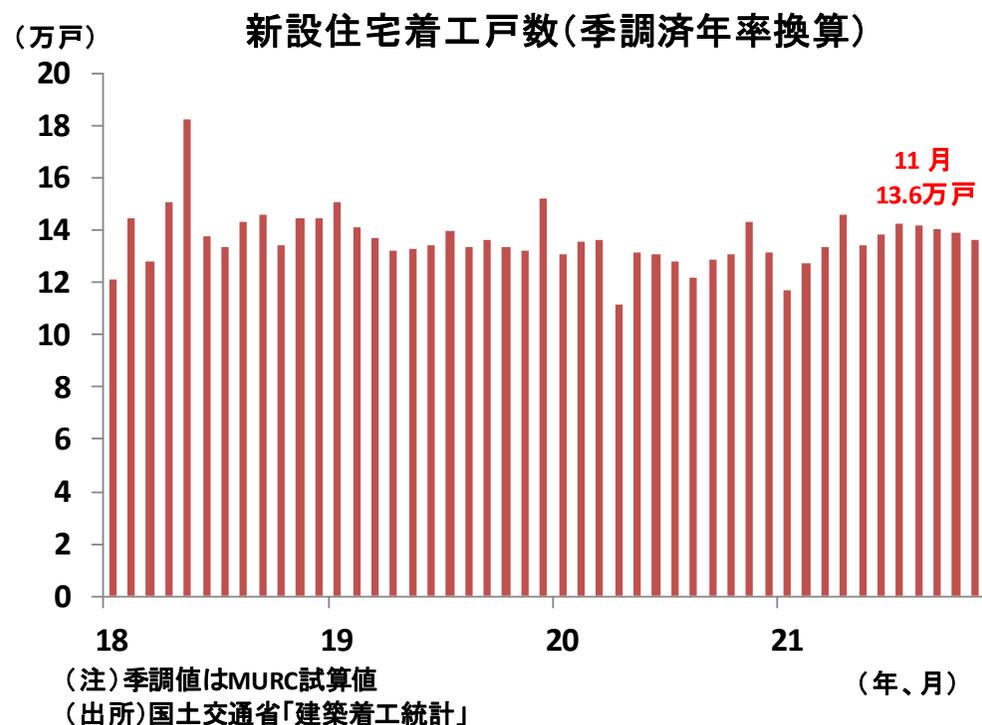


(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」



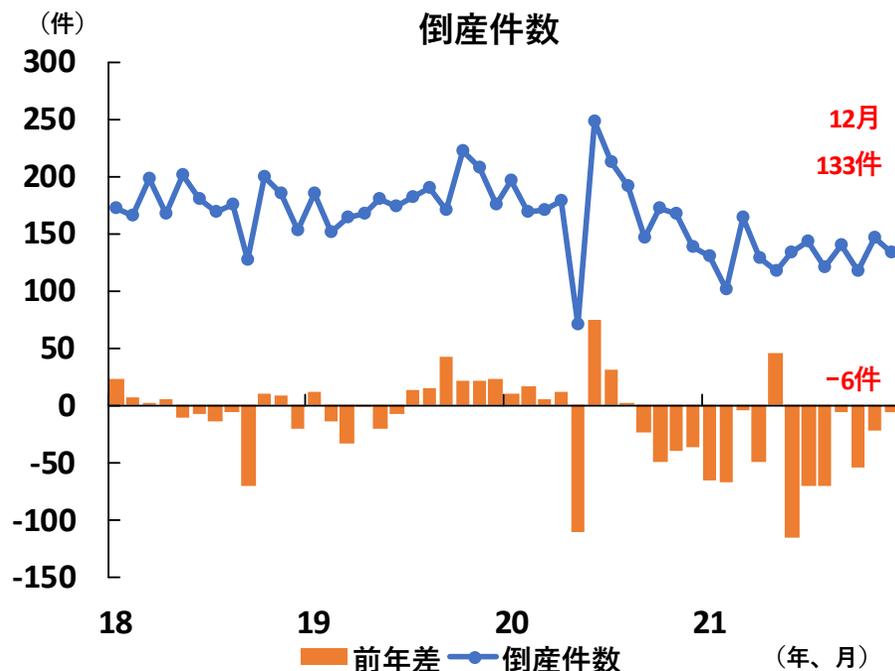
住宅投資

11月の住宅着工は季調・年率13.6万戸、前年比では-5.4%となった。持家、貸家が増加したが、分譲が減少した。



倒産

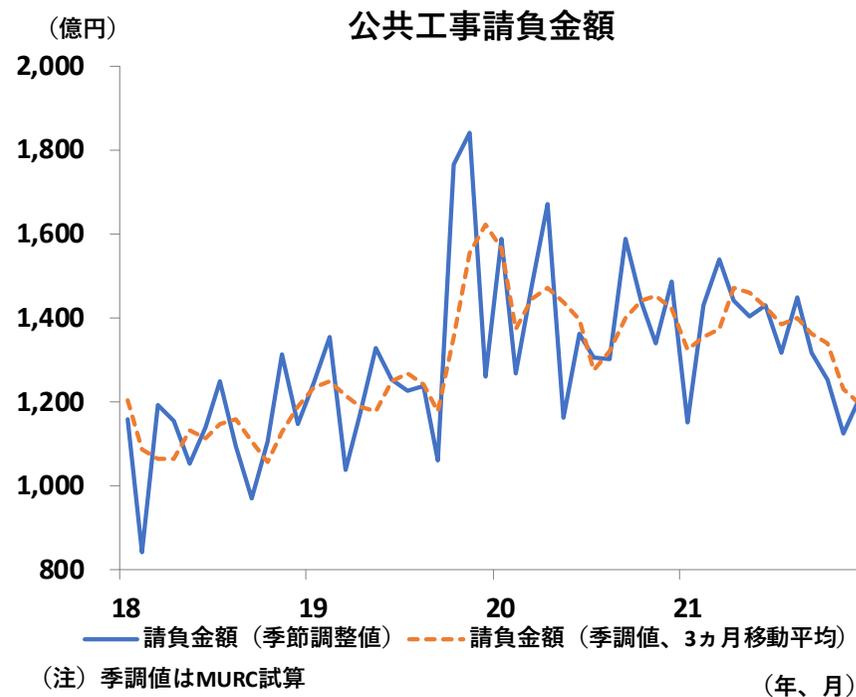
12月の倒産件数は133件と前年を下回り、低水準で推移している。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

公共工事請負金額はこのところ弱含んでいる。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 塚田 TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください